



# 日本児童養護実践学会

## 総会・第2回研究大会のご案内

### 大会テーマ 「児童養護施設とアドヴォカシ」

後援 テレビ朝日福祉文化事業団・財団法人原田積善会・東京都社会福祉協議会児童部会・財団法人資生堂社会福祉事業財団・筒井書房  
協力 目白大学

2010年2月14日(日) 10:00受付

会場 目白大学 東京都新宿区中落合 4-31-1

大会委員長 千葉 茂明 実行委員長 和田上 貴昭

参加費 会員・非会員 3,000円(院生は2,000円、学生は1,000円)  
意見交換会 5,000円

申込先 日本児童養護実践学会事務局  
(シムウエルマン株式会社内)  
Tel 03-5211-2858 Fax 03-5211-2859

締切 2010年2月5日

#### プログラム

10:30~12:00 基調講演 目白大学学術顧問  
本会顧問 石井哲夫先生  
「積極的養護論とその展開」

13:00~14:00 学会総会

14:00~15:30 シンポジウム

「子どものアドヴォカシに応えるFSW」  
司会:加藤純(ルーテル学院大学)  
発題者 鹿毛弘通(ベトレヘム学園)  
酒井寛(マハヤナ学園撫子園)  
野村和洋(赤十字子供の家)  
樋口亜由美(まつば園)

15:40~17:10 分科会 研究発表

17:30~19:00 意見交換会

#### 第1分科会 【児童養護実践】

司会 横堀 昌子(青山学院女子短期大学) 大竹 智(立正大学)

発表者

若松 亜希子(東京育成園・至誠学園)

「児童養護施設の小規模化における心理臨床活動」

佐藤 恵(目白大学)

「地域小規模児童養護施設の職員と児童の視点から見た有効性について」

兎澤 聖(至誠学園)「児童養護施設における職員の自己覚知」

大竹 智(立正大学)「ニュージーランドにおけるファミリー・グループ・カンファレンス」

#### 第2分科会 【子ども家庭支援】

司会 高橋 久雄(昭和女子大学) 櫻井奈津子(和泉短期大学)

発表者

板井 貴宏(児童精神科医 至誠学園)

「精神障害を患った母親とその母親から虐待を受けた男児の母子精神科入院治療」

峰 陽子(福音寮)「家族再統合」

高橋 直之(東京育成園)「児童養護施設における家族再統合の取り組み」

#### 第3分科会 【施設運営】

司会 坂井 勉(群馬フランシスコの町)

発表者

藤倉 寛昌(クリスマスビレッジ)「職場内研修と職場の活性化」

河原 一郎(東京育成園)「施設運営の現状と課題」

武藤 素明(二葉学園)「政権交代後の児童養護の政策関連の動向と今後の課題」

岩崎 浩三(日本ソーシャルワーカー協会常任理事)

「先進諸国における社会的養護の現状と課題」



# 日本児童養護実践学会 第2回 研究大会 開催のご案内

日本児童養護実践学会は、平成20年に立ち上げた発展の途についたばかりの期待されている学会です。この学会の特徴は実践学会の名称が意味するように、会員が児童養護施設現場と深い関わりを持つ者が中心に構成していることです。当然のことながら、児童養護施設の多様化するニーズと複雑化する家族問題に対する現場感覚に重きをおいた実践研究と児童養護施設の発展をねらいにするものです。

今年は、第2回全国大会を目白大学で開催します。大会テーマは「児童養護施設とアドヴォカシ」といたしました。このテーマは、子どもを主体にした児童養護のあり方に視点を置き、子どものニーズに如何に的確に対応する施設運営、援助技術の発展ができるかを主眼に置いた研究大会となることを意図としています。

今日、児童養護施設サービスを必要とする要保護児童とその家族のニーズの大きな変化は、児童養護施設における援助技術も必然的に変化をもたらしています。また、児童養護施設は、利用する子どもが社会自立していくまでに育て上げる家庭代替型施設から、家族の脆弱な期間において必要な援助を行う利用型施設へと変化をしました。子どもを養育するケアワークは長年の積み重ねが見られますが、一方、子どもの課題や虐待等による心理的支援、家族問題の解決、さらに子どもと家族の再統合に向けたケースワーク、ケースマネジメント等の援助技術はこれから研究を重ねていかななくてはならない分野です。特にケアワークは、第一義的にはワーカー個人の力量にゆだねることが多く、組織力の有効活用を併用した援助の確立が必要です。また、ケースワークにおいては組織力を効率的に働かせ課題解決を図ること、さらに地域資源の開拓、ネットワーク構築などの手法が求められているところです。また、施設運営は効率的な事業運営、IT活用など相当の工夫をした取り組みや、地域社会の福祉文化を創造するミッションが求められているところです。これらはすでに実現している先行施設も多くあり、こうした現場の実績や研究が、本学会が発信の場となり大きな時代変化とニーズ変化の中で児童養護の新たな方向性が構築される機会となることを期待しています。

今大会の基調講演は、長年児童養護施設に適切な提言をいただいている石井哲夫氏の「積極的養護論とその展開」が予定されています。シンポジウムは約2年間に亘ってFSW研究実績を積んでいる研究員でありFSWの実践者でもあり、今後の児童養護界を担うであろう若手シンポジスト、さらに、同研究主催者の一人でもある加藤純氏の司会で「子どものアドヴォカシに応えるFSW」と題して行われます。また、研究発表として、分科会1：児童養護実践、分科会2：子ども家庭支援、分科会3：施設運営を予定しております。

今大会が児童養護実践者、研究者、関係者の多くの方々が参加され活発で意義ある大会となることを望んでご案内します。

大会委員長 千葉茂明



目白大学交通のご案内

- ・西武新宿線「中井」駅より徒歩8分
- ・都営大江戸線「中井」駅より徒歩8分
- ・都営大江戸線「落合南長崎」駅より徒歩10分
- ・東京メトロ東西線「落合」駅より徒歩12分

## 日本児童養護実践学会 第2回研究大会

### 参加申込書

お申込FAX番号 FAX 03-5211-2859 日本児童養護実践学会事務局

会員No	ふりがな 氏名	所属	職名
住所 〒			
			(自宅・所属先)
電話	FAX	参加費(当日受付でお支払ください) ( ) 会員 3,000円 ( ) 大学院生 2,000円 ( ) 大学生 1,000円 ( ) 非会員 3,000円 該当するものに○印	意見交換会 への参加 ( ) する ( ) しない 参加費5,000円
Eメールアドレス		弁当1,000円 (いる いない) 近くに食事のできる場所がありません	